

90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



門へ13
3937

安政四年丁巳新春開板

鈴亭谷峩補錄
立川國卿画圖

後編

天寶水滸勢力傳

此書賈人急促譏冗故寫刀謬誤未暇校訂
直以授焉恨蠅頭文字不易改刻耳

本編作者 谷峨誌

天寶水滸勢力傳全卷之下

江戸

鈴亭谷峩補錄

第八回

録

造酒勇士揮て繫龜們を援ふ事

蜀次郎勢力の危急を告ふ事

第九回

江戸 鈴亭谷峩補錄

第十回

造酒勇士揮て繫龜們を援ふ事

第十一回

蜀次郎勢力の危急を告ふ事

第十二回

蜀次郎勢力の危急を告ふ事

第十三回

蜀次郎勢力の危急を告ふ事

第十四回

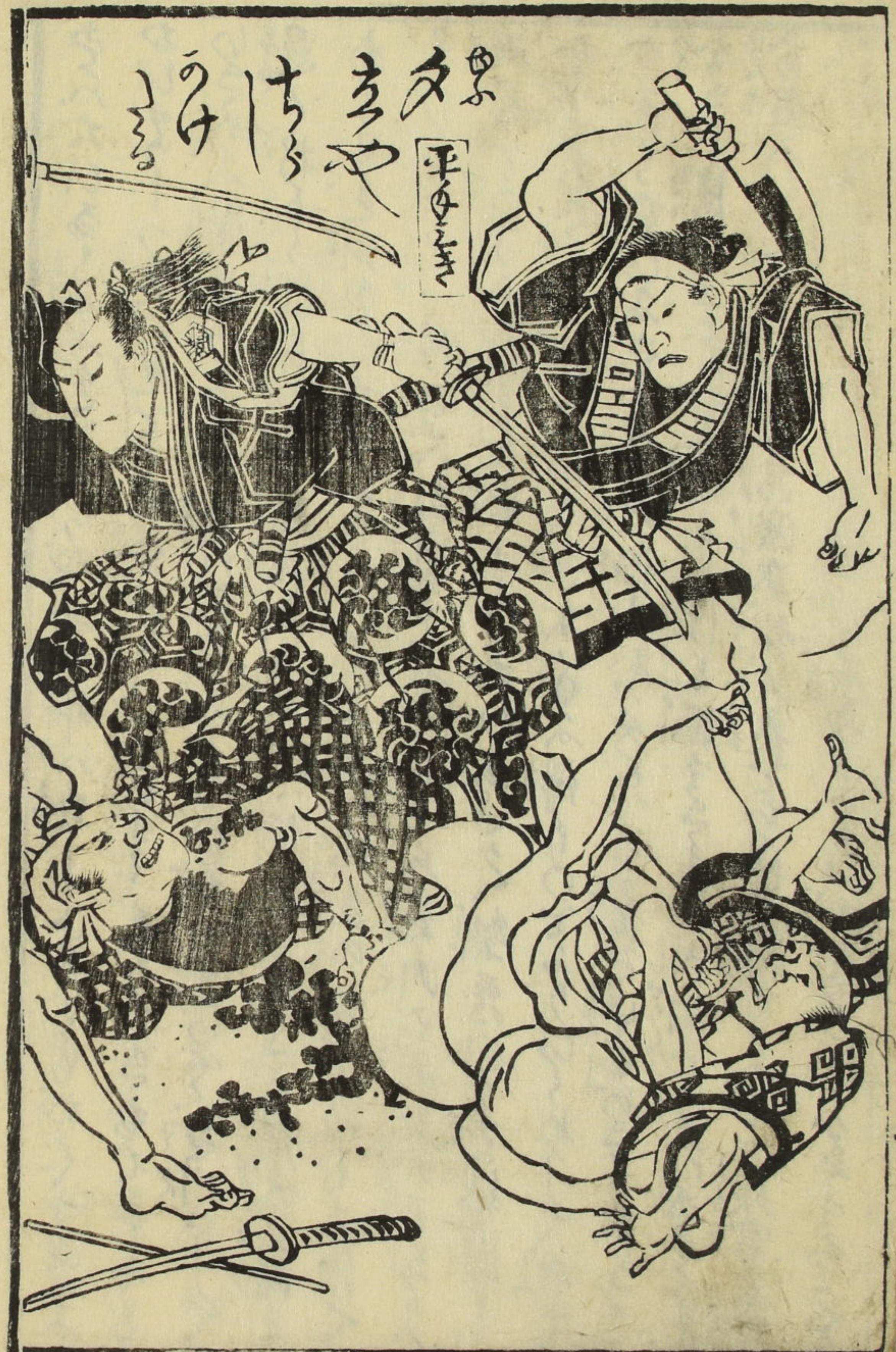
蜀次郎勢力の危急を告ふ事

以上畢

第八回 造酒勇士と揮て繁翁们を援ふ事

金の手と繁翁们と助五郎と逃げたりのう。天から下る鷦鷯
をばりうるがと見うへるひね。かくてへ本家へあげらる。でも不
幸家へあみこあバ。家うちの者どもおどろきおぞきて、皆ちつぐよ逃
うせて空家おひとりたこか。隈あくよひめぐれどもさうふ然ふ
見えざまばた隠みをおひき。思ひのまふあたまをもじて、繁翁へ
毛胞けいても。倉廩とひしきてへまへて。令狼羣衆をもう
さんと、もむと努力かーとぎめて、金でま監族の足しもからす。あら
のまあくぞ助五郎の、えふかくねがうあくぞ。政吉の評まは
う。りーともわくば渠奴きやつやつがみづみづと、櫻院
かくのどうとせば。まじけどあー。衆人数もだのあ後あんごとあきがき
ゑ。筋方じんかたへまつらふと、署しょとへりひ。敵地てきちふありて、進退つひふ如ごと

さへ大ひるさへとましん。助五郎へ連つれーととも。かくまでふ
むびきーととば是ぜとちて、輪快はいかいと。このままあうぞきあもきや。と
りこめふ繁翁はんのうけふりと。思ひきうびとこの家やと立たり。庭門まで
退しりぞくわく。櫻院の高盛流たかさわりゆと。さきかへりてわまとの農夫窓流のうぶまわりゆと
あくまき歩あるくとあくと。木立きたちの底そこかーとけて、
又あくまき一陽いつようの人数じんすう真光まこうふもと一人。星洲せいしゅうの傍そばの政吉まさよしあり。
殿恩方とんおんのふらんどりと。數十人そじゅうじん。わひあへぐ。繁翁们はんのうらあ邊へんを圍いく。
かふぞうたと逃と逃ときあと。まふもふ得えりのと。うひくやうて。おで
くきう勢へきひふささを六個ろくも。おどろた。クダラ。生死のまくひある。
今まくは隠かくしてとくと。逃とふと。逃とまく。六個ろく二陽によう。おとく。おとく。
お後あとふむく。大敵だいかと。奮激ふんげき突戰とくせん火炎ひえんと。ちして。防ぼうぐりのう。衆寡しゆがの勢せい
ひ繁翁努力はんのうりょく猛もう。その身後しんご不ふあく。力ちからかく。今いまを。まくと



あくまで飯屋の出来の如と波ちゃんと思ふおもて改行仰が儀至らま
うううううううううううううううううううううううううううううう
送酒とりよりのぞと大音声不若のづ。兩手不若力うちもつてよ
むすまうせ不放をひよ勢ひきかげ秋風の木の葉とちもどくううう
ううう一人の敵あまどもふいとうきて改行めあん们だまとうあひ
車ひ逃んと同士聲ざうと制一とむらとを得ぞ俺ひもく兵士と改行
か事不トと燈へつな入りあもふ本の間バく見不逃さうけりがまきけふ
繁翁們ハ命といひし勢ひつきて六人。せふあより繁翁農夫をふむ
クモベ農夫たゞも改行們が降易をもふおどろきあそきて改行ひも
博くべきあちづぐふありーく。繁翁們六人へびく送酒うち向ひ
再びの足ろびと送酒うふ泥うあくふ送酒努力不うち向ひ俺の大夥
かねくも里をば繁翁不繁翁まで。開本二月あづけ一つ廉漁く序をば

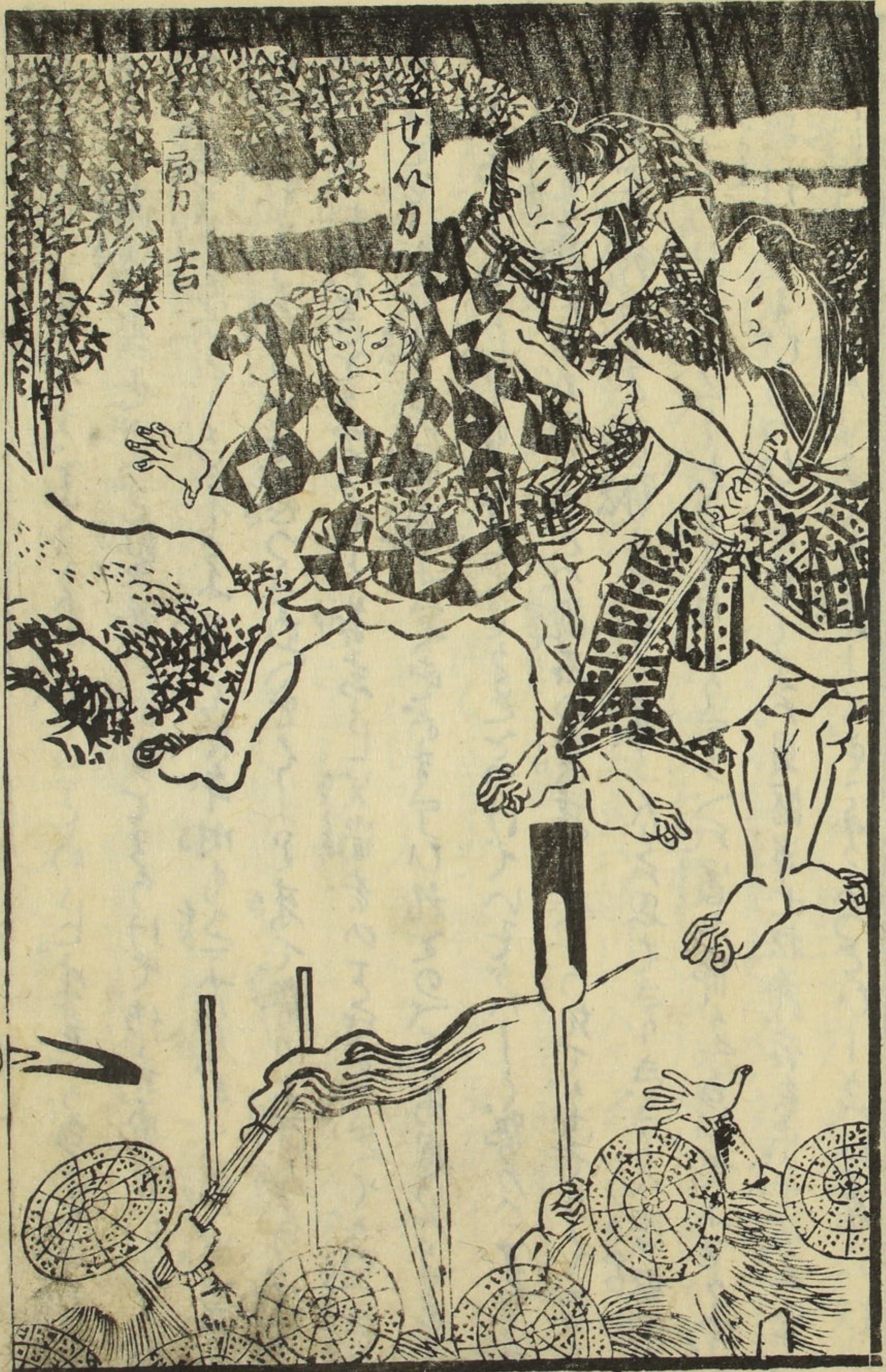
和まくえや色盆を布きゆ。ぬじよ。さくべうみてひかう見。進川の駄
くこと。うすてあんと思ひあく。その後ハカミ一せう。一ぐり。とぞや和まくふ
歎オシ。今まの残りの糞まごゆきべ。あくも相と離て。恩極の社不詣へ。
がふとへりぞうそ。おふ事りひと流不飯酒。うちもくとて。桃子みゆきと一覽
し。とまう日と真向やで。さく進川ある繁翁。津と。おうね。以。初變。之。
家かくとおほれりの良二人。かく見一のひと寂莫づらわりくら
うふまくと。おまくと。安慶と。とくとく。おもひ。つまもあく。のと。あ。と
變へからも。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。おま
くふ再生の恩と。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。おまくと。お
まくと。おまくと。送酒と。拂多ひ六個とも。進川うて引。角のまくと。お
まくと。おまくと。おまくと。勇もまくと。おまくと。

さまで助互席へ繁庵（かみ）不ふ意とうきて車へても、くまゝ、人食（ヒムル）を助ひて、政吉
こゝ一逃來（おげき）一久、政吉走（はし）て走（はし）がるとのわのりやせんと、ぶらんと繁
庵（アヤシ）不つぶて、振（ふ）身（み）のをきわい一久、外（ス）多（タカシ）と波よすよびん们（め）を走（はし）迎（むか）
そくこへて、この里（さと）豪盜（ごうとう）へて、くるべがもとておあると、をれとを
あきあづ一老翁（じき）、農夫（のうぶ）とくまつをもーと、まき漁簫（うなぎ）とくらまくで、百人
あまくあて、來（き）一と、政吉へ陽つけして、政吉とテたゞきと、をとて、
繁庵（アヤシ）们（め）六人（ろくにん）とも、まきわづかまんとせーも。ひとくの兵士（ひょうし）も
まきと勞（つく）て、まきよ切あけをば、ほく／＼思ひ／＼が、傷ちひを人命（ひとみこと）より
き（ス）。その夜のうちふくろ（くろ）とびて、翌日助互席（アシタヒツシキ）とくらまくひ繁庵（アヤシ）們（め）
昨夜の若翁（わかくわ）、さうぞ被勞（ひろう）とおもふ全員（ぜんいん）も、さうぞあきよあくね。今
肩（たる）もくさぬきとけすと、ぐか（あきひへんち）が、過（すぎ）せんり、助互席（ヒツシキ）とろひて、
を追（おひ）のすらん們（め）と、まきとくらまくびもつて、多機（おおき）あきべまちをゆく

べー。園越（わんせき）とりどもとめふうり、金引（かなひき）とてへせん年（としみどり年）と、もく不ふをとで、
家（いえ）で、まき一准備（じゅんび）とまつゆ中（なか）不相應（ふあい）清潔（せいせき）とり入りのゆう、追（お）とく馬鹿（ばか）の
弓（ゆみ）さうくそ、波濤（はとう）有（あり）り金（かな）と借（うけ）、力と實（じつ）ふ抜け（ぬけ）と今貴（いまたか）とて、
うゑとと、金子（かなこ）ともののかこりもきえ利（えり）の今（いま）とまよとづふぞ。
あるト函音（かねおん）土糞（どふん）よそがと生（な）て、つづく。昨夜（よのよる）あぐの發動（はつどう）
とくら、寒車（さんしゃ）の喰（く）ひやと、圓（まん）一ベ渾次（おんじ）の自然氣（しぜんき）とその發動（はつどう）へて死（死）、
今青（いまし）うかくのとめり、政吉哥（オジギ）くとせんとて、くわて、波もあよすと
さる人、政吉方（カタ）の名うそのすらん、荒町勘（あらまちかん）石、正渾松庄席（まつまつ）利（り）セ又産（うぶん)、
大八（だいは）們（のみ）つまつも共不八十餘人（よそじゅじん）、よんべの返被（かみへい）ふす、行（ゆく）とくひゆ
達川（たつがわ）の麻像（まじょう）どもとドんふくとびきて、歿（ちやく）バ。その附（つき）て血（ぢ）ぬくさ、力と
又（また）ぬせふよと、りひきてゆくくらうと新樂（しんらく）よう見ゆる扇次席（おうじせき）へりそ
うくうもと、牛安（ぎあん）くづと毛多勢（けたぜい）りて、達川（たつがわ）へかへよまく。この

安危こううりとある。やく内引いてあくまきあぐ。ことひ恩人努力ぬ。人
兵士、朝夷の勇もともひこそ下令令くさんとあつとのまわら
てへ慰とあくめりのこやしきさん。いふふきべーと父ふくべ單衣も良びて。
今よりして直ちにてふうそくあむむき。努力ぬ。ふこのトドマテ
告てさそり奉へずや今育の獣ひふ。猿々ともかまえの大癡痴ねん
あまへ。公儀の御友うて。緝捕使がむうへ必定せり。をあこの地を差遣で
あん身よ志のひゆべー。さりあくばあままうの附ふえびすのへ英金入
縣へ世づりどり。立グす志ふと。この一色と勢うぬ。よどて海を
くこまよ。連係へともかくも。喧嘩のそぞれをきうせと。とりひつけ
らきて。苗次郎ハ大ひふよろこびと。伴の令すと。腰中て。篠月は
てそりもだらうさり繁羌努力們。造済の武勇ふ虎口とのまきて。くゞ
哉ふ務へ。まびいさと。まわらとも。進川へ。うつまつ。済うちのまて。渡

勞とやきんまよ。吸ふみへらりありと。まく熟睡あそべ。家主席へゆざん
せも。助立席の不意と。改吉と。まく。遼済のまくけふかひもくじ。し
新方の勇威ハ示れまくども。渠奴们うくどもひふ思ひて。被拵とせき
らんや。まく新方の疲労と見こんで。翌日ふりこまく。かーと。せまんも。
もううがつと。ありひーうぶ。あたーまだえーまどろまく。まく。まく。ふ起て。防禦よう
いをあきだらと。繁羌们不思ふよと。告きば繁羌わざまく。ひ。假景のよ
も。じよハ。は夜のて。あミト腰を。まく。みでふあくー。下床へきや。と。づ
を努力かーと。勇ふを。まく。近夫へ弱ー。と。どり渠奴们ふと。又。繁
渠奴们的流神さ。食わ。侮りて。准備とせむ。後悔取る。と。うまうたて。小敵と見て
べー。さふわくも。やと。造済ふ。圓へ。造済へ。然くとうまうたて。小敵と見て
侮るべう。まく。然て。容易き。款あ。ねば。要ふ。ふも。志く。こまくも。防禦
を。まく。分湯のとこと。听て。繁羌家主席も。ようふと。きりあく。さたま

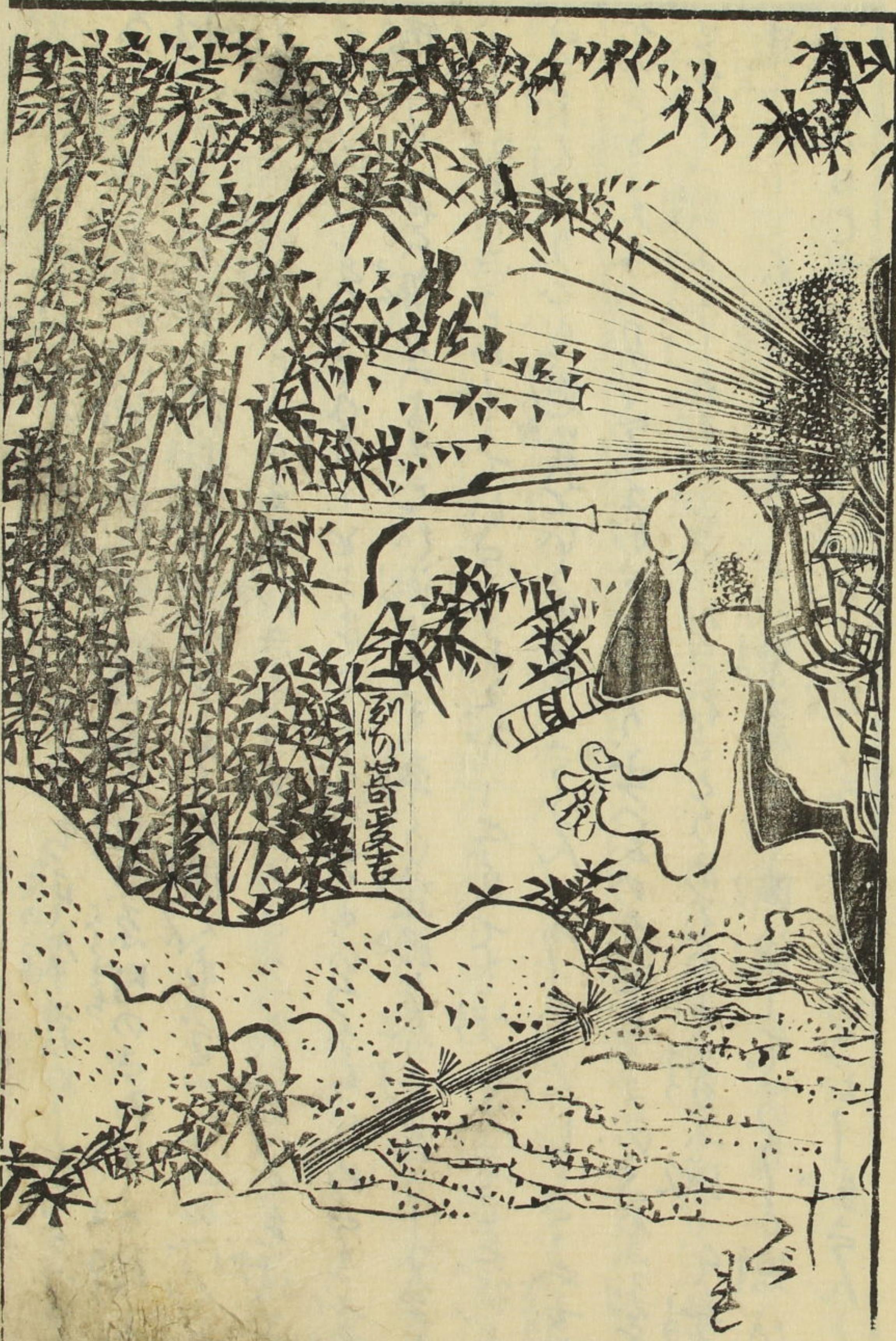


ひる助立席とてもせうとをうてあらとわじ。本きばうあくと今有え
ゆく商談とあたべーと繫菴の酒宴とまうけて、傍観者们もよび
えし。若手登とめぐとど不ぞよ。因ともや午時もより。かく處一間次席へ
三里ふあまむだりせと。思つまわざと來て。努力と酬金す。清次
ふやつちもとうやうと若あらし。丈間席のとくとつて。うの一包の
令子とつせ。努力へ感謝ふとおまアい礼とのべて。この恩りへうきを
ベキ。よろしくまつしてあそまこと。こまきとつけていそがへーく。努力へまつての
うと繫菴们よりのぐまきへ。流石の繫菴もあらだて。あてうくごと
あまきども。のとく多難りて。がくあくんと心をさすまへ。渠奴们的
不意をうづ計とくとくねと。努力ふくとく。富立席とあひてふくとふ
さん夥計と。うびあらむとりと。見陽草七松義。吉宗。平次。二平。
接次们もと。十八人。まぬきふくと。まくすとひーく。繫菴とハジホ

收びて。は夜の運航ふ遙源もくと。イコモとも人数二十五人。坂昌とふくべ
て。人數に少ひとうあきバ。惣りのとくと。やどこでくふみ。トと富立席
あひえうて。幸ひこの釜川と。麻の戸村のそのむをひふ。左右竹山未げり。す
釜巣の細乃あり。かるくぞうと。とあらざき。釜川へ入とあくと。思つき
船方の要害。この轟うげふ。煙火。と。歎このあとよき。附毅と小柳ふ
羊捨りて。まきと。寒ふ突出さば。路をきうあて。搜き廻。多想と。入ーと
あき。進退同じ。と。まー。えふむじて。まう。拂ふ。との。伏勢。はうやく。後
うひあらぐと。まー。えふむじて。まう。拂ふ。との。伏勢。はうやく。後
繁菴们。が。吸墨。か。ウ。墨。と。を。吸。て。猪頭。い。ある。た。と。も。と。も。也
ゆ。あらん。病。あ。と。く。不。懈。不。せ。ま。り。て。岡。一。こ。る。一。と。恩。絶。と。つ。よ。ー。を。若
こ。一。け。ま。ば。繁。菴。努。力。自。除。の。と。り。ま。り。と。そ。轟。き。う。き。ひ。う。冬。ま。一。歎。く
女。く。ー。だ。と。ぞ。と思。ひ。を。身。と。防。備。の。よう。い。ふ。い。あ。あ。ぐ。の。上。ふ。り。ど。ま。へ

生死の理いのちと情むとうと。あきりては傷ちどりのふ。既ども岩瀬藝彦
と。その下トあせり宿る。室野川文吉の處女とひそくふうひつひふ夫婦と
ありけるが。あホー居して去年の冬。その妻病ひふとあらきて。もう多く
このせをさう一ふ。そきそりして。艱あり。うきば自際のすがん仰。妻子
わらうのひとりもあり。ハホのく。氣をもくおへうる。令と情むりのまし。
そぶ中ふ平ひ造酒へ。其酒をして家と鄰るところをめとめと思ひ。も
その身のあらひ。今ふりくらきをもじて。もとでふこのふく勢力ふ。巣
鶲の巣とそくをき。不測の恩を想ひ。うがよん。又ひといのちを
惜まじ。傍をつく。改志の多弊と。もまち放ち。ひ鑿花屋。其郎們と
助け。が故に。ひ多勢も。あやまちて。在の腕へ。ひまうあぐら。底うけ
アリ。廢とも。もとざう一ふ。が僅かに。ひまと。護りて。被傷風ふ
ありけんと。思ふたうり。ふり。わらども。我慢の本性ちつともひよふを

ども今宵の。うきひふ。続りて。ひ進退不如無。或運つきて匹夫とりよ。
うちも。こまく。もしも。うきひふ。ど。まを出で。ど。まふて。室五席。ふり。や
あそび。へりのまをいのち。全く。へや。と。ひ苦痛ふ。堪うぬ。と。ひ。この場と
違ふ。うきひふ。と。ひ。と。勢力ふ。改。よ。すりのうて。さそり。今宵の
うきひ。拂ひ。と。ひ。と。ま。一。後安閑。と。このところ。か。在。ま。す。寛。う。り
う。り。拂。ひ。と。追捕の。沙汰。う。き。あ。ん。拂。死。を。ま。へ。と。ま。そ。い。の。ち。と
た。ひ。ご。か。の。く。ひ。便。宣。の。せ。ひ。房。の。く。ゲ。一。被。さ。く。ハ。り。づ。と。ひ。の。び。み。ふ。と
室。五。席。ふ。う。り。向。一。バ。勢。力。を。ま。う。ふ。う。ま。う。き。と。ま。う。か。キ。ト。壁。縁。と
う。り。國。と。あ。く。き。て。ま。と。ふ。便。あ。一。國。を。へ。づ。う。と。ハ。被。州。あ。う。春。連
川。あ。小。連。小。連。宋。取。ま。と。雷。轎。輔。猪。首。の。轎。轎。と。い。ふ。ま。ん
あ。り。あ。の。く。も。て。づ。き。と。ひ。あ。き。ば。ま。の。子。が。へ。ら。り。か。あ。う。く。を。貯。轎
州。町。不。第。轎。轎。と。り。ふ。一。の。と。足。骨。の。む。ひ。と。き。せ。た。ま。く。ふ



停てちもくべーと安て遠湯へよどもとうち。その事考ぬへんちづき
あり。和キミトシヘ行ぬま。新町ふるど血き。新町のざあ庄ら村ふ。
水橋波門がよどく新右門とりひきもくらうの渡人あひ。口ゲ一チニの門へふ
そ。一勝萬千のものあきか和キミゲ家ふあひ。あつむき復ふ
うちりのこひきもくらうとよきとべーと。たやくわらうあくめ。書
敏とコトせ努カハよろとび謝つと卒よ遠湯が今育きドネキモ
べーと。かくじきつてひきもくらう。かーであれても。笑ひきもくらう
さう小人あくとも。恩義といひてあくぎくんいゆ。へのんりきくもくらう
おのきとよろうぶりくらふがくちづく。さへおのきとあるゆりとあるを。そ
ひきもく一勝ふうあきがまくわちきねととりあす。義勇不感ドテ繫
義不よーとあうぐと考一うべ繫義ふう。感謝一そのりく思ひ
づ。秋の日をやくりもく。初更ふ遙くあり。うべりだもーをさんと

繫義勢力。造湯。候吉翁の二十ツ人。がくく身ぐるふりで。あひ。行
を。うつてうの轍のこえりある。中岡南。りそーく。宣立郎。さーづ
ーと。序の轍のねひ。うへ行極り。てにんづ。あきまもす。わひづと
き。う。轍ととあきてあきこゑ。う。ももうじふへ遠湯をもよ。勇者。
軍ヒ。が義們六人。と志のを。て。轍のう。ろと。うべーと。りひくらう
分ちみり。十二人のをうちふ。多院。如林のりのとあく。て。岡中西
南のう。あふ。明神の轍。つらう。きまと。依吉へ立あくびて。繫義
の方。わふ。あと五人の。かくん。ふ。行極。とりひ。う。お在。し。う
根本。小樟。翁。と。うり。うけて。大輪。と。舞。あざふ。多院の轍。とりのともせを。
今や。あそ。し。篠。アリ。

第十四 比内大國譲の事

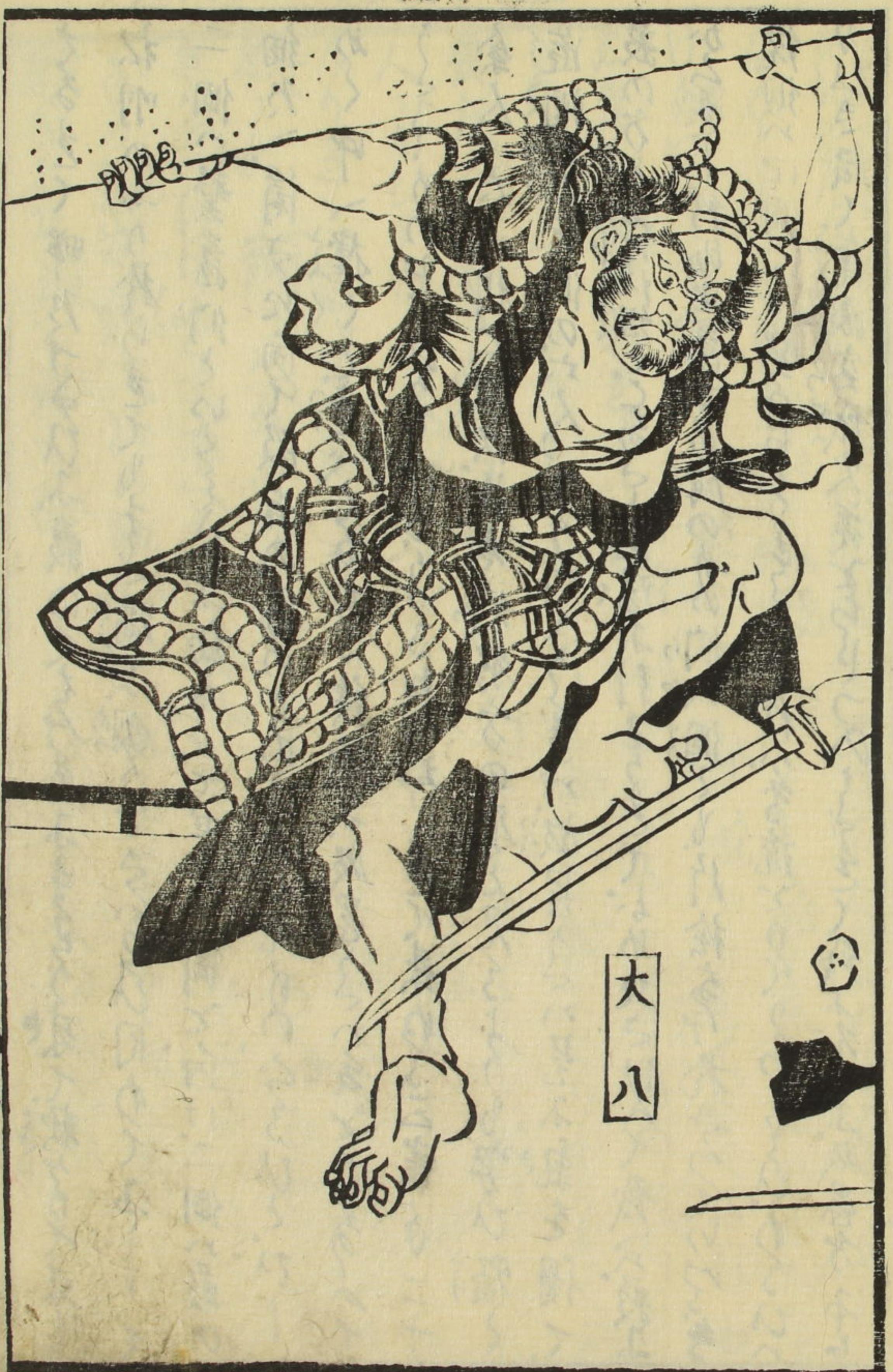
さうも。ふ。助立郎。洲の。濟。吉。づ。ふ。あ。う。ひ。て。日暮。とまつて

八十餘人。三陽ふとうちて助立席へ。二番のものわくさがりて。八疊。三
艘ハ_ハ舟ハのあハのえハにハ魚ハとハ魚ハをハまハうハうハ。拔ハ東ハ國ハ一ハの大ハ河ハとハ受ハ一ハ。下
利根川トさうトのおり。遊川トかトゆトくトみトぞ。むうトひ風トきトあトきて。漕
船トこトくト漕トりのトも。水トあト一トうトふトそトうトどトも。子ト都トもトくトとトきトて
こトくト。せト遊川ト不ト着トふトらト。さトたトよトうト繫ト參ト川岸トへトの見トとト出トして
あトきトートぐト。じトまト看トしトおトとトちトやトあトうトとトあト向トも。輪トをト換トそトべ。まトもトま
うトけトてトあトそトとト。あトもトよトートあトけトモトバト一トチトさトんトてトふ。んトもト荒ト町トのト勢ト立ト席ト。
桐浦ト清次ト。猪ト助ト。三ト十ト餘ト人ト。シトきトをトくトじト。ひトみト不トりトんトでトきトミ
あトけトわトよトうトつト。ニト審トるトへト御トのト高ト政ト吉ト。もト下トりトあトそ。二十餘人ト
そトろトをトえ。不ト意トとトうトつトとト思トいトートぐト。声トもトくトそトをトかトくト。ふ
一ト番ト身トハト不ト安ト。波ト穏トも。軍トうトもトそトだトて。むトうトいトをト見ト。森トをト小トさトくト。不
十ト人トだトうト。也トこトとトうトとトびトうトく。さて。ハ今ト育トちトよトるトを。葉ト奴ト御ト

そトをトもト変トきトりトけト。さトもトわトくトばトあトきト藝ト苑トへ。子トもトんトてトもト多トくト。故
小ト勢ト。すトとト作ト。とトかトづトき。とトくトもトくトこトろトせ。とトうトたトうトづト。どトろトと
おトかト。うトくトて。うトるト。まトち。まトうトけ。うトるト藝ト苑ト。うトの。もト豫ト園トへ。將
神トの。森トの。うトテ。うトくト火トをトとトき。うトて。是ト被ト。びトくト。嘗トとトうト。ほ
きトそトけ。くト先ト。とトきトみ。執トをト。隊トの。りトの。七ト。父ト。老ト。とトうト。も
うトせ。おトひ。のトれ。とトぬ。後ト地ト。不ト成ト。思ト。ごトハ。胆ト。をトけ。とト。人トをト。まト不ト序
後ト次トの。五ト個ト。ハ。作ト。操ト。とトき。ゆト。やト。とト。家ト勢ト。の。け。とト。よト。とト。あトく
きト。とトら。とト。じト。つトき。とト。敵ト。とト。ひトとト。づトうトの。敵ト。不ト勝ト。ち。とトき。とト。二ト番ト。まトうト。まトあト。人ト。くトくト。とトくト。もトそト。くトそト。くト。鐵ト。不ト勝ト。次ト。御ト。助ト。也ト。
そトの。陰トの。りトの。もト引ト。くト一ト度ト。とトうトひ。遊ト川ト。ごトの。まトえ。んト。御ト。とト二ト回ト。

うちもさうのう。ちドリを渡みて十キ不づきあひドリにてこと
あきバ、実どむ繁危勢力们が、ちカ風不むりひきてまくと來るる
事、えらきよとわらそひ逃去りごくと。のうもろやうると、製造们、
遠もあらせぞ、返うる不ど木。二番目の改吉へ、木で不先の製造们、
さうひもくへー初弊の木べ、弱方不ちうとそんと、閑あけつ
きあーが、あくと小氣りー竹義あり。疑義あきよあくねを、
あくと通じる。行ひあまへある木ト。路をせまき一人立と
旗の廻りふお後とくまさせ。隊弊不きたざむかわとよう。隊弊
松立席。地位ぐり又差們、口まきととモドとあつて。おもくよそよう
いやわりけん。まく人那方の木ぐる木不。牌火あうけの木死火、木と
ひきこひくあきゆふと。あひづふとあひの數クげ不消まつげ。行
檢査の双方ひくく審生を。檢の檢き不取者へたれの基不つき

くぬきて法とだうりふ御ごうとつろと、別乳の改吉只かくふ
て、刀とぬりてへうきつふ。たおの行檢きりあう。この裏うげ不伏
禁あり。と大音高ふさけひもあまくじ。竹間がくきふつきを、八木
の行檢よつきふせらうよりの十に又人、りくであらうも改吉ら
りのどもそくこの表中へきりりとどへもとつきて、えみごろーふ
あうべーと、さーづふ又彦。松立席们へつたもと行檢と改吉ひ
うけあうづ。鞍へんといへくとだ。忽流と鞍尾よう。平手
造酒。勇吉。軍七八個ひくくびとおめきそ、りうめきこまつて
改吉が隊弊のうーろと改吉つよ。若ふあくも修殊の左刀風。然の前
右の腕ひよきそとひづて。たゞあぐりも修殊の左刀風。然の前
をもとをと。あくも本の実のこぼす。この時明神の森不
かくまー。多佐子(よさこ)に個们へきてび税葉と筒ふこあつ。森を

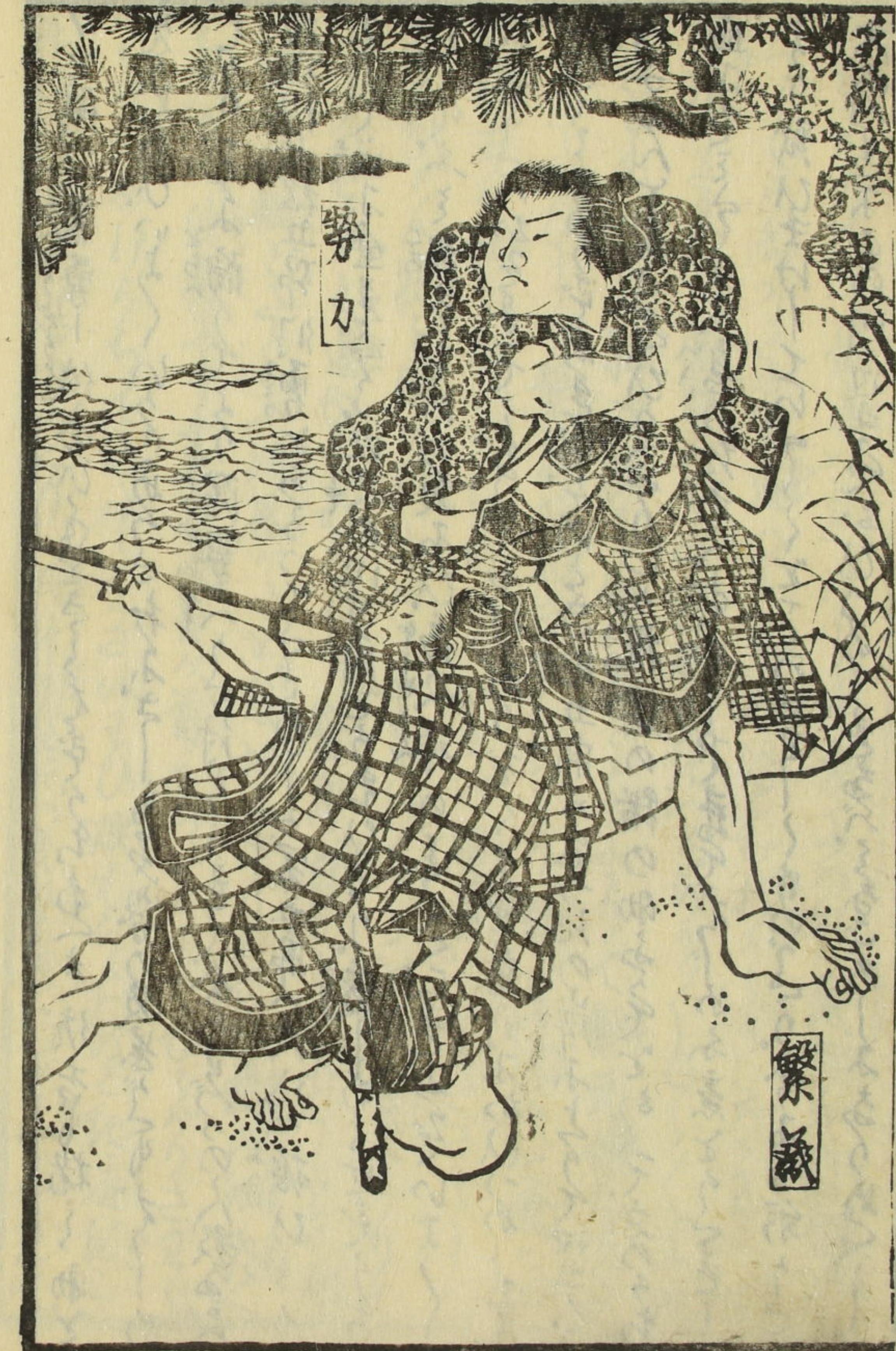


あるきて畔はびづかひふ義ぎのでもぐをふまくう来て教きがりてままー
松明まつめのあり於おらきてもまだ燐はなす。燐はなすときひ月つきあてふーと
二個ふたハ蟻アリ翁おきな門もんといどくとえ効こうをうてせしへ筒つばと向むかけ。二個ふたハ義ぎの
細ほそたへ筒つばさた向むかけ改か左さの隊たいのりのどもぐ走はしりのぐろひとびー
めく中なか一擡うつくと連つづべをもする候ま砲ほう不ふ威い思おもがくへをとうあひて
うきうきのぞえうりけふうら處ところへあくきて、まゆふ三者さんざも二十
余人よじん大八利七深次長左ながさ右う門もん筋すじ方がたの頃ときとんどうも勢ぜいひ艦かんく
造つくり酒さけ勇吉いのく門もんの六人ろくじん不ふううてうま一いつば候ま思おもがくは是ぜ不ふ氣きを擱とて
義ぎの方ほうと多おお汽き組ぐみとあること三陽さんよう引ひきうきて、おめたさけへて飛とく。義ぎよ
からまこらま助すけ忠ただ翁おきなとの隊たいのりの門もんハ洞あなとも、行ゆ檢けんあげ於おきうそりにまき
統とう領りょうに個こども、歎あきらめらうもまとまトまれまば、号ごう院いんとりそうもまとまひまあうひひ
刀とさき接つし、奮激ふんげき突つ火ひ燒やをちりつ入はまきて強たけふ不ふどふ、候ま思おも方がたよら

之初はじの底そこを敵のぞをそよめ、而ひ死しふおひ三十人じゅうじんふあまれども、鎌川方かんがわ
らりとくらり小こ蟻アリ翁おきなの修しゆ練れんもたりうら、勇吉いのく門もん筋すじ方がたの助すけ、主お
け合あつつて、うりのく、軍ぐん七しちその砲ほうハ被うけとくとくきて、また小こ部ぶ助すけ、
忠ただ翁おきなも、號ごう不ふよをきくて、神かみ東とう鄉ごうふくへふふに寸すこ角くずのだらうと、
うへをふくうを死しんで、り、造つくり酒さけハ多おお勢ぜいふとくくもとくくて、候ま
人ひとうもとくくり一いつが置おきのつき、附つきあくくけん、驚おどりとよくくれ、
候ま一いつ然ぜんつば、夜よよいとくくいきかひかひとろくく、づゑふ多おお聲こゑふ
きうつりうきて、あくくまき、敵のぞをとげふりふ。さまま一いつばすす一いつ書しょ
候まの勤きん左さ、激げき次じ孫まごの助すけハ二ふた書しょふだくだく閑まなとあげて、か
りふだかだかと滑なめて、敵のぞのりのたげすす、然ぜんひひ一いつが、あくくふ敵のぞ

彼勢ありて二番手へまくさき。あふへ繫義。勢力們死力を
つくらうもうるを。邊つくりいともわくらうしろとく
後地へきて。敵勢へまくさき。さよだつちうへなまくふ
さうとも。敵左。邊次。松く勢へ。あまとがまうて繫義。勢力。後左
かくとく。かく。繫義へ勢力とうもどう。勢力へ邊次と繫義
左。後左へ松く勢へ。松く勢へ。かくとく。かく。
原あひりん然く勢へ。松く勢へ。ゲーくあげたるを。後左いうり
のがくへせトと。邊ゆく。あとより。繫義。勢力。あふう。よそを。勢
義組の。に。個とく。よ。坂恩。と。怒地。ふき。ひ。敵の細脛
うもひく。敵。勝手。まくさき。政左。首うち。かく。ても。もくがくさつ。じ
敵の中へ。あけらちて。あくと。とき。ひ。敵。まく。とのと。れ。造説。る
うもく。ひく。のこうし。前引。敵。い。ま。繫義。勢力。が。奉。と。り。て。

力と得て。奮勇十倍。あひよとまうをまうもあ。を。後左。も。松く勢と
因うし。ひ。いよ。く。い。う。め。つ。と。か。ふ。さ。一。も。多。勢。の。廢。是。ぐ。も。も。ト。り
を。え。と。ふ。敵。と。よ。り。隊。勢。六。く。付。く。く。生。て。今。へ。つ。ぐ。の。人。殺。軍
大。ハ。利。セ。松。立。席。們。勇。と。あ。つ。て。く。う。ひ。く。家。立。席。へ。大。ハ。ゲ。振。ひ。く。れ
く。く。血。不。金。ま。く。ふ。九。尺。の。口。す。角。と。う。ひ。ヒ。ト。リ。速。も。わ。せ。ま。く。う。
外。レ。ふ。三。教。を。そ。の。り。た。石。ひ。疫。双。神。の。と。く。く。こ。そ。ふ。ぞ。い。よ。
敵。恩。ぐ。く。へ。か。そ。ま。て。ま。く。く。み。げ。あ。り。ぞ。く。と。繫。義。們。不。お。ひ。つ。あ。き。そ。
う。く。く。い。の。う。も。あ。き。そ。そ。の。と。き。助。立。席。へ。あ。つ。た。の。岸。ふ。よ。う。て。に。立。人
の。す。が。ん。と。あ。き。ぐ。ひ。く。く。う。しが。援。緒。の。猪。の。助。あ。を。と。も。よ。て。き。の。う。
血。ふ。そ。こ。く。ま。く。思。つ。た。わ。つ。ぞ。う。や。ま。で。や。あ。ふ。意。と。う。そ。そ。
よ。う。戦。ひ。ま。け。と。の。う。と。



貌あんをゆくみみうつてびとすだつとあらむれぬどりよおう
筋むのふすきんわかさでふうとひひきく。通車もくろへ避むる
繁彦们うちうもくとばよとひくとけと屏ふつまき。ハ繁小繁たま
ひとあくかくとへひともとくとくじと開立席へあらべに立人の
ふうんとそげす。ひくとあと織やとつま。繁彦们ふきくくま
へねづの族ぞと繁彦勢力より一派勇んでうちあふが、返をみて
來くと利七松立席機く助もとくとく。繁彦えうちすくへ織ぐん
まちひととくとけとあくとひしきゆとひひつ二個の先ふまくと
免めのつむじよもくとけへ繁彦勢力派を勇者。ゆくまちつとくひ
一が利セハ三毛不繁彦と助立席のれとあらふと見。勇者よわこけらま
し。うみとアモリトキと。おもとだ勇者とコマス金。一上一下ときわむ

正月立席機く助へ。その宅の子あんとあくとあふ繁彦行ふうと見じく。
利セハとこと不りきあひくとけと。義不勇者ふうと見け。ひひま助立席。
進川右の子あんとあくと。利の子あくと見け。その身もとくと
ハ繁小繁と。早く岸美あきし。繁彦们へ助立席と。とく通へとくと
急ごとあせまどくらふ身もあけまとば。追へとあくとけりとくと。自
眼へのとまくとあしとえをばくと。ふ子あんの三年。多く穀ととくし
す。吹くよさきてありしきは。是寃夷と繁彦。神虎とゆきひきを
とく。腰とさぶをばくと。ふ子あんの三年。多く穀と
繁彦へ。多く穀とゆきひきを。続たとこあ火と。さくらもくと
助立席。多く穀と。鬱とうちあく。おくりとらをと助立席の。も
らきとおぬきけん。若と一聲助立席。さけじわわくと桐の弓と
矢張りと。りあとく。子うな。行をどうきさうど。もく又や

を睨うと見し。と思へるを親を取らんを取抱へて。おあへてあらう
ところ不あらずと睨てうなづかれて左の櫓と。うけ声をかか
きをば流ふくするもやみの聲を歎む。とく餘へもや。趙孟の
海へりづくと。助立席へかのべく。奥あきうへて起あがきば。
題のとまゆく。且おどろた。且ようろこぶと大きくあくび。まきく
そひとを睨ふ。かざらをかひて血のあざき。とまのあくび
アーハいうふぞ。助立席も夏のとく。正色も多徳ふくと。思
りうふぞ。助立席も夏のとく。正色も多徳ふくと。思
ひーのとくあく。呼吸をくらぶ。そのあととのとくあくねど。夜不りき
さうやがれもあるぞ。とあきのとくあく思ひうみて。れきすくぬげ
べぢり。糸ふ。玉とろびー處わう。ごれり。と筋とくむけ。件の
纏をとれひきて。足をばらだら。縫どうる。淹石利明王の

まりあへる。破きて。そのまゝうひきう集へて。とく明
王の擁護と。よむり。うでだけあくもしくせぬひて。とく身
がうりふ立ちひく。おとをき多や有びてやと。まきく。従ふ
理ふ織へそ。うん派とぞあづけ。ふがん们もまみ盡。檢の
りちどるたを感へん。つやびて身を織ふるて。吸墨へりど
マタリ

第十一回

勢力水滸兄弟と義と猪ふ事

さうふど。繩巻へ。助立席のあとねくひて。おくる筒のまゝ
へあく。うが勇くもじめて。纏あをば。そきうあくねうあく。
あけきど。今宵のうひは是までなり。ひとすう引あげ紛争へて
明日まこと。高儀とあをべーと。勢力。抜志。勇志。松巻。若志。草次
りとも。うちだたあげつとが巻く。うて。おとばほのく傷を

頗るてひどくも金難あへぬべある。さきども敵がこのふうがよ
うじね小勢とりてかぞりうる。猶ととりへおのくが氣氣勇氣懾
あをばたりとぞをかへたゞくうるをぬる。遼瀬軍七助助大兵
二卒その定十二人。かくむべくわざをむべ。船中遼瀬が
きら。かく勇士とうしあひぬ。とりへぞこまくうあづをて情すぬ
りのあうけりとぞ入助立席。うつぐ食とひろひつ。さうか
ふくうともあひとりこり。うちトおとうぞよろふ。政大ハ勤を席。
利七。清次。松立席。們宗徒のりのとを。めと。六十餘人。う
あひ一。大ひよちうと薦へつ。その夜へこまくをむろも。
あつとも野のこ。おひのくと明ふけり。寒ふまを育の
大宣喚。の方の元人をよひて。八十人の屍へ累々と丘の
ごく。血のあがきて田圃地。あり一時ふ一まき。紅蓮の満身の

毛もよし。をうりあをばを追ふ。櫻くじら。國安。うちまち。ふく
ありて。國八州の巡見使。ものりのあらへあひて。進川と殿馬へ追
捕ふむ。よう。無事刑きつて。さうばかりとまうこの地とさげて。
身を志の志んとありひくふ。あらべとさうと志ゆく。あらふ。勇士を
松庵。本次。清次。吉宗。我們の五個。ふうでの苦痛。うひうしが
鎧。せんと。 の巡見使。土兵。をゆきと。をゆきと。をゆきと。を
つひふ。おもあくならう。つけり。うそば蟹彦。努力。に個のせく。を
て。こうろあうのを近。あすね。うひ。ひりとむく。をゆきと。を
けり。このよ。助立席。もやくあひて。ふざん。们。ひる。ぐく。あら
のう。あら。その身。ひいと。あもと。づきと。うめ。うふと。う。股。脛
あら。陣代行。うそまねう。う。年。ごろ。古。陣代の。らあう

うる。俺どんべの罪を得て、必定りすこめらもともと、入りまさる。この場と遙かに男ふわくとこころとをもて、版派へありもけし。ありともきはりすこめて、歎津ふつあぐよしあきどり、實ハ陣屋かくよの主一うば。の巡見役ハ版屋ごとり捕えそんべにて、まと空一くちて引みけり。さう不ぞふ軍立席へうるとまきのよういふと、當吉よりあぐよしあ。令ふひとつまと服ふ」の也。とくきてと人だら一の罪とのがきとと思ひ一うば。人ぬとまぎむくぬふとそえびくあ蟹とそりちく。蓬川とそろくたあきつや野の鷹巻へおちゆたて、榮助、蟹彦、協助們が、洋ふ志をく志のぶをくふ。人のうきもせ七十日追捕のさとり止一うば。松琴と見おあぐ。常吉とひうら又水鷹同絶とあぐねべ」とて、あくつをす裏をきく。秋もむうとをぎきつて、才ハ薄のひとう猿ゆくと奮けま

陸奥の名前古川と見めぐりて、やうて當一兵のひとぶりて、此のよ風とくもりて、猿のつうまと体め一うば。ゆく日くころ村ふちりむきて、水寧同絶と面食ま。遠瀬の喜鷹と見せ一うば。同絶とりふう毛よろこび、うけて雷鳥ときをすよ。努力かねてでも正せ一うが。大ナギと名ふとむまくへられ、くがうへひる。師匠の遠書あくととも、あくうひまくんと勿縫う。とて、頃うふふうの着とちうひぬ。

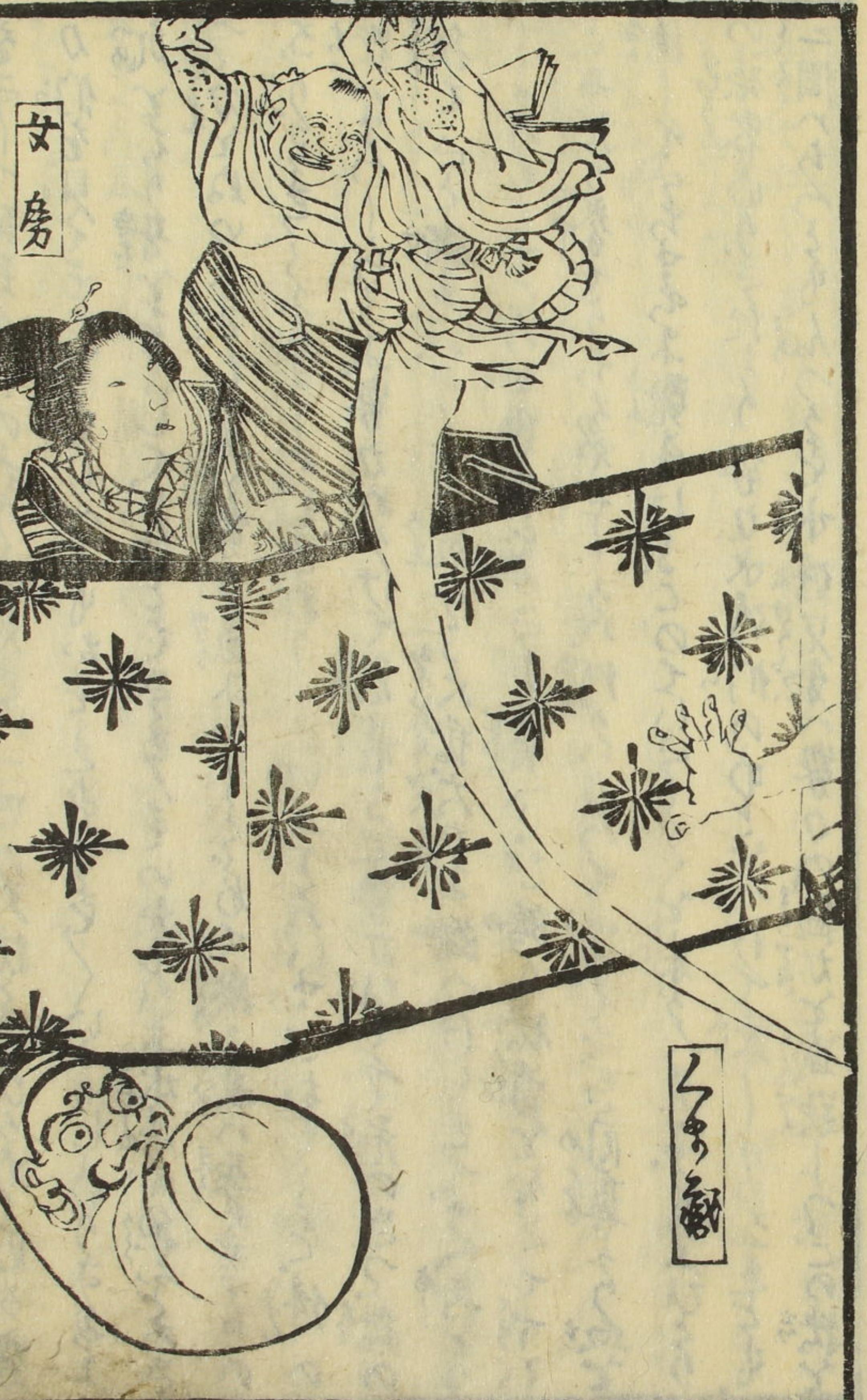
第十五回

家立席大猪を暴ふをる事

あくの入蟹巻へ、進川とのぐき、歸て、あくのふく方を志のび志をう、初舞とうかくふとふ。助立席のミ版屋あく。陣屋へそくやうともき一うが。そのあくへもあ延さうて、歎方すも行うて、ふもくくわ捕らまし、あくもあく、じまづとがおの魚獲きく。あくやくふたり一うども。

おほりやくありとすみさんとて、終つて金すとくあらへねば、大和れぐ
アリふ日をからず、かうの温泉ふ月とくますて、今ハ遊川を立退し
よう。二年もまくもとだ一石とふ。旅うる旅のとあきばあく
さうらぐのかりもきからりて、宿女のこのとあくど、あうあらうもなふ
あうねども、とふくにひーけをば、ちうて又遊川の石をう迎き
あうぐのこく、こうもとて勤舞ときけべ、助立席とゆもきて、ひとの
ごくふありてあう。近吉はこのうち思ひとーして、めくらまく
ひきりとううきと音ととね、つまとのわうのあう、門へうつ乗るの
多く、かくして、安ーとて、脛を、も無事遊川へうつ乗るの
うれとくとフリ乗るをやう。们へうろそび、旁人で、游ひ乗つ。うつ乗
車をねりけり。さきとハ義秀の家立席の安慶ととせをとくめて
すう、義川の常彦が洋ふ候るよりあくまで、先御ととておけよ。

さうやど、身勢力ハ水滸傳とすらべて、常彦のりとふ角をうせ
ごうじゆあら日光御のりの撫養のよきとて、てて居て居り、
いそがうとくひをだるふとまく、遊川ふうへりきば、共ふくうてまく
ト、無力へ眉とひそめとて、ひま年殿とあらじとども、一交をせ、人殺
しの罪のきやう辭あらんや。あらうとひとの土地ふうるへおまくよ。他を
解りて、さうう禍を行ひのべり、わくまでも助立席をうえをあくべ
他邦ふ居て、奉とぞうじとて、ひまく、行て親を、旅へりの
とと志あらう。とくと常彦ふりのうて、寝くわせをあらし。解と
のべ、愁と歎して、水滸傳ととひあひつ。こゝと告げて、ありでけり。お義
のすあら、せよあら、家立席へまちといとげて、財をうへおまへ、喜車、
蒙助游へ立とうべとて、ひまく、足をあらづ。とまづ、か山づきの禁ある。をと
をとよきうわらふ。おまとすよ、石とけあげて、いた石ひ猛く、寒絶とぞ。



をさへて死んでゐりのあり。と見まば一匹の大狼がひきあへり。努力
力們を見ゆるといふもちもともかまく。いわしめりさうなふ
血と牙とをもして。うけとぞさきにいたる。水鷹同狹がどあき
つ。力とねりて立むよと。努力氣と。努力氣と。おもて。歎ふ事へ要す。の
あり。こまくふさうてをまね。といふと。おもて。体の
熱。全ぐ一ぐらふ。努力めがけて。おもて。努力氣と。努力氣と。狼の
腰を。こと。狼を。ば。さ。ー。も。荒。ー。大。狼。大。力。よ。狼。つ。け。ら。き。と。と。狼
て。おもく。ところ。と。努力を。おもて。腰。と。おもて。と。おもて。
と。おもて。腰。で。うち。おやせ。ー。狼。行。久。り。う。と。ま。う。づ。き。同。腰。う。血。を
流。と。おも。不。難。き。け。と。本。ぐ。と。おも。と。ひ。と
の。旅。客。あ。り。また。う。努。力。水。鷹。門。の。わ。と。と。つ。け。と。東。ー。の。あ。ま。と。も。
二個。は。ち。う。と。も。ん。つ。う。と。水。鷹。足。力。へ。努力。の。極。力。と。感。歎。と。つ。この。然。と。

狼まで。おりて。ゆき。多。少。の。狼。おもて。べ。り。き。ど。も。い。う。お。せ。ん。特。半。小
ひ。ー。き。太。鷹。を。兩。個。の。肩。おもて。か。る。下。に。渡。く。初。も。狼。あ。け。と。ば。
三。里。お。わ。す。う。う。ち。の。り。と。い。う。と。う。ひ。て。ゆ。く。き。と。ぎ。う。あ。く。狼。や。く。
狼。急。お。わ。ー。お。も。と。情。む。と。努力。氣。も。う。ら。く。ひ。狼。ー。と。お。け。が。見。つ。け。ー。
者。が。労。せ。だ。ー。と。利。獲。を。禦。ん。是。天。よ。う。そ。の。り。の。ふ。め。ぐ。と。ゆ。ふ。わ。う。
お。と。せ。ん。や。持。て。お。き。ね。と。見。く。と。袖。と。お。も。つ。と。立。き。と。水。鷹。足。力。
あ。う。う。り。の。よ。と。か。ん。う。う。み。ぐ。わ。と。お。つ。り。て。り。ろ。と。り。お。り。じ。た。の。を。不。幸。
け。う。た。ひ。う。の。旅。人。お。足。と。り。あ。て。出。て。あ。り。是。い。ま。努力。氣。と。う。ち
教。ー。う。と。と。へ。ぐ。ー。竊。お。見。つ。る。旅。人。あ。り。しか。り。う。あ。う。と。ら。を。あ。と
せ。ん。お。ぐ。と。色。お。近。ぬ。け。と。努力。們。が。來。う。た。の。と。ふ。コ。手。と。作。ま。て。ま。る
を。と。も。あ。う。ぬ。三。個。は。す。う。と。と。ア。ラ。う。ふ。身。の。う。と。ア。マ。つ。ア。と。ア。と。と。狼。も
あ。き。と。も。息。う。と。ア。と。と。ア。と。と。お。接。て。い。あ。き。わ。せ。だ。う。と。と。ふ。外。抱。え。

やうなへと金子うぶをもひをとうふらふ篠人へ。おどろきつ因よろこひて。
りまうる大樹ふ生あひて、うけとをさまきしが後息せしう。そのもの
てくへあくまをひひきわきこぎのむとあくあくとひがこのまう葉裏く
ゆくべたありしふわき有ぐくやとふと合してわまくびれとのふ
きえ。勢力ハあくあくとて、癡ひまほのねゑあくとよんとあくうも數
くあへとの櫛をあく金くとて、悟石庵へあくとまうりく篠人
うちまわりてうくぎひあくふ面矣たうとて、悟石庵へあくとまうりく篠人
あくをやこの方すゑは寛八州ふ一二をあくそよ伏界の中のあくと
ある。勢力ぬしでかきとくとまくとよく篠人ひまづきて、うのとよく聞
かずべし。勢力氣りてひひとせしむ。おのきへ篠金の者ふして、夢響
絶えとウースリのくノナととの三葉とくとまくばとぞふり一捕らうと
うじとくも櫛圓をまねうきて、うそてゆくとてあくとまうり。

まきをひく。あもきけよりく櫛とひの子あんふくとあくとま
やと。兵顧ニフをり。うぐくとて、勢力つじふうぐうひーうぶ役をも
大ひふよろびて水海見かくわうどす。勢力あくとまうりて、夜連川と
あもきく。

第十三回 勢力勇氣瘦神を退拂事

かくて勢力ハ既とひそひて、栗助のりくひく。繁茂が陰にく
すきへ又筋入席と事起らん。そのとひか櫛とくのむと熊糞。輔
角もすねき一ダ。このとき熊糞へひくの櫛覗。おりた瘦神をも食
あゆよし。とゆうり勢力きことと掛て、恩神をもあきと大ひふ呼び
瘦神の柄うち筋をくりたひふ邪とちひく。忽地不瘦
うせて、お快くあくふらう。この事一にの災徳とありて、勢力あくも
あくねむ。お朝のとくもひくがこそ勢力ハ栗助の。か勢力あくとまうり

來るべーと。そのミオハさむく夜とこありて、進川へシテしろ。豈ちうらんや
繫着ひうんべや。神ふあひーとき。是助立席のつまこと。齋をもすの
トクシテ。黒白もくとす。歯ぐきとてぞ。牙ぐきとてぞ。牙ぐきとてぞ。牙ぐきとてぞ。
涉る處よ陣代竹ぐー。らむとあく。勢力と。搦めとくとんと向ひー。が。
勢力さうふかとろりぞ。ひくう門づふ立坐て。とう。べきくとおぐまく
う。猛威ふぞと坐て。とう。もの。人殺らし。胸きり。逃スリ。むく
唐土蜀の張充。長板橋ふ百万の大軍と。あみくせー。も。殺やと
り。おびと裳一ソ。うそ。など。お梁助們のか勢か。ま。本巻一卷を。
りそや。殺ちの仇と。殺ちんと。勢力の。人殺を。ま。川舟二艘。そのうち
ア。お。見さんと。も。と。た。ふ。魔轡。殺を。見えざりしう。さて。ひと早く
ぬつき。轡を。梁助。耳き。示し。つ。かう。後。足。一。や。と。迎き。お見よう
か。よ。り。お。見。う。り。そ。勢力。被門。轡助。繫着。ト。め。五十人を。う。と

お。而思へ。ぞいと。ぎりふ。お。ひ。り。で。つ。き。う。の。ら。せ。り。の。勢。力。們。ぐ。の。り
を。そ。し。お。の。く。あ。り。う。く。清。う。ん。も。う。と。た。お。底。よ。う。板。ふ。と
も。の。け。う。き。こ。ひ。と。く。形。き。り。づ。く。人。殺。ふ。二。人。の。曲。り。の。が。と。く
と。こ。う。を。お。も。と。て。い。ギ。り。め。あ。が。く。こ。へ。き。す。ふ。や。ど。き。曲。り。の。海。舟。ハ。助。立。席
ぐ。ふ。お。ん。あ。う。べ。ー。う。き。く。ハ。三。海。游。移。左。脇。馳。小。傍。梁。助。く。り。で。ぐ。面
と。見。て。お。ん。と。松。咽。ふ。火。と。う。ふ。と。く。お。と。ば。ひ。く。の。岡。を。あ。り。き。て。お
海。ハ。助。立。席。よ。う。聞。者。お。入。へ。つ。り。の。あ。う。べ。ー。白。狀。セ。よ。と。諸。り。せ。る
きて。岡。お。の。陳。ぞ。う。と。わ。く。そ。だ。実。ハ。助。立。席。の。子。ぶ。ん。ふ。と。撲。子。の。同
の。諸。類。市。と。り。よ。り。の。殺。う。の。金。と。う。く。そ。だ。勢。力。不。追。づ。き。初。辭。と。う。ぐ
ら。ん。と。既。不。堵。よ。う。と。得。て。う。あ。この。と。と。殺。う。く。つ。づ。く。お。事
り。の。う。う。お。の。と。も。没。進。せ。ー。う。ど。と。ても。防。獄。あ。づ。く。ー。と。そ。て。殺
う。く。下。も。本。家。の。氏。族。う。ま。五。陣。底。へ。お。げ。こ。ま。つ。奴。婢。们。も。か。ー

ナリシテバ、御友こそあきあ家とも、空宅も同様くさりこのふを清
きるだけ。陣屋よりひととおりて、この處へおひづれて、路あきところと
おとくん。計畧ふことをりあき。又榮助内へ、虜を下す。西蟹
彦親こと。ゆき浦ふせりのと。而て秀友も、榮助らあづきは、
備煩市門を、永慶へうち入つ。蕉次うち消へぬを主の園ふころと
くをうつ。ちうとも由鄧せざりなり。さうやと小勢ノハ助五席の宅へ
うち入しが人。殺さふあくし。さてハ本家あるべーと。又か一
ゆゑた。うちこの家ふも。人氣あけきバ御もあく。弱むーともぞとく
通ニキバ火と放ちて、燒ちうひ。熱傷とさまさんと。主家との小火と
ナケンバ忽地半天ふのおりて、煽くつるいきわしあまども。差近の
ものども。勢力かく來ぬとせあつて。一人も生やぶりのもなし。さくべ
勢力ハ思ひのまふ。助五席う畜へ。全限衣装器物とみみのとく

あく魔機。快とうちうらひ。人殺とまとめ懲り。お後をもぐまを
引ちうしと。廢治の陣代ふること少へ。うち捕へまくから。義父。駿
兵們。うじふあうごとくして。さうふ人殺わくねば。支配下を引
までも。孔坊。つる勢力門を。一足も遅れで止けり

第十四回 勢力自殺にて神不掌らる事

かくて勢力ハ。お島へもつて。特右衛。榮助がくせ者二人リ。ヒロ
どうしと見て大ひふ毒びもく。やうす首うも。あくとくつとも。檢刑
松の枝ふ鬚を絞ひ付て。板子一枚ひきとも。とぐ裏へ行観の草
り。あくしととも異ふあくし。貌がん無能の儀云と被ふ。勢力安五席と
あくさくおふくつけて。松の幹へ立きて。みまく。おのづくづく
おづくふ進川へうづく。そのとた勢力ハ。破門特右衛。榮助。駿。輪
助們と。勞ひて。きて。りよせう男ふ小口をあくんで。助五席版活を

トあらべうらをさまで陣屋らんやとおやがらんと。殺くわくねてあら。
金で^キの連続の名とうけん。然わくでも人と戻り火と殺うて大き
きもの。罪とうもあらひあるとき巴への網わからんと。対卑とあくも
あらべうらをうんべ被うると燒や。手とおろして無慈悲むじと。寒さー志
姑の首うち。是をりて是をりて。りまをすく自殺せん。和ぬ
們ふ罪ありとばさん们引連ひきうちまうねときりと。蒙助們もまうき
きみいきめうまくども死死まま財ざい死死ままば。死死ままあまを能えち
わりととりひもあちて毫もきうま。さうが共ともにとも押おめ。うひて
より引ひけん五百支しをうりの金きんと。こりあくそれく。骨ほ代しろ代しろうち
わす。小水こみず小水こみず見みかへ。貌おもうんとあうそりふ。死死ままとともうひひ。こまくへ。
とは是孤獨の窮民きゅうみん。わらをき。美泉みずのむれせんと。思おもひこんこんうわり
きえ。小努力こめうりとそのままう。おれとままうりの蒙助まゆうの
蒙助まゆうの

りのとあらうふ渝おして。和ぬわ們わの獨ひとりを。敵あだふ妻めふの敵あだと。け
て。もとうるが御ごの隣隣。早はき。早はき。身み自じ殺じも。ハ。和ぬわ們わも。ト。内
多たくのままふ。罪つみわせと。思おもへば。こと。無慈悲むじの子こも。生うふ連ひら
連ひら。ぐとくふ序じりて。今いまへもやん安やす。死死どころのうきてある。金昆ひら
山さんと室むろあらう。あ不ふ勝かつ。よよ。わきわき。とと食くねと。絶箭炮きやくせんぱうと。あら隣ひら
隣ひら。あふままつ。とのオももう。うだりだりそだて。金昆ひら山さんへのがりけり。
そもくこの金昆ひら山さんへ。いと小ちいさた山さんあままども。柳やなぎ川かわふふと
足あし一方かたの上うりに。あり。との路じを。あももと。柳やなぎ川かわふふと。得とくぞ。
勢力せいりきへ。ふよよく。うち登のり。大樟だいちょうの根ねのうち。油布ゆふふふ包いて。うくもくもくする
多くの被は葉はと。二ふたを。うの。結むすと。うり。和わせば。み。荷くわ舟ふねここきを。かかくと
船ふねを。防よぐ。准じん彼かれみみと。岡おか。バ勢力せいりきへ。ふう。多おそそ。かかうの。よようの。ああそ



いを討ふと防ぎ得ん。よこの山ふ追つて、筑立席へ歟死せりと。
後日、ふいもまんへに備けとばからよらひとおきりもあづみ自殺
せんぬのと、とりふねく禁下の方うち、櫻花籠を鐵あらひと、八州の巡見
使殺百人との夥兵をあらぐ。禁下ととりすた責よるを、りのくへと
あらえど、ひくくつろびて後炮と、もきて火光隊のりのたへ、警幕と
しゆうきける。その勢ひと、壁易て、殺百のとくもひとあらきと、禁
籠と、うねへ向け火蓋をきりて、ほどくもと面相うち傷りをのまし
まくもふ体そんなり。あらきみもと、勇氣き。彼ともあらじ巡見使へ
まくもふ体そんなり。あらきみもと、勇氣き。彼ともあらじ巡見使へ
疾地を防ぐ。あふ零の行ふ國を絶りて、是を構とへるぎつきて、
ありくとちへ上りしが。この形勢ふ異色異面相うちし死首と、藤

山までりそと、とも要あらきと、巡見使のりもととよへと傳へゆて、
山を、山次席とよそとへて、年ごろ勢力不めどもとうけ。里人們多く、
ねぐひて、その辯を乞ひうけ、うばひ、傍見せりうどりふ。要提ちへ裡
葬し、大ひらき墓碑を建て、義勇隊と、鑿あへて、諸人勢力の鑿と
ちて、て、香華の終ふことあらうと、が、所ふと、うくの頃とうけて、
この塚ふ雨覆ひをあらうひ。窮屈を達懐と、詫げ、總力靈神
と、よるめける。都、勞あらうかとの勇との、いとあらえりて、滅び
ざるうひに碑不つて、千載の後まで、持さうり。まことに、助立席
のあくのと、款をうけ、りこの年ごろ、畜林と、情むとあくは、人
ふ極まへ切、極ふより、毫毛勁の權、復やりて、その家ふ憲ふうり
けり。是より、即ち山次席へ、勢力のたときれふうと、與見と夫婦
ふあらしきべ、併もうまく、古親ふ、若養とつまふぞ、じよく

正一丸氏と水と做つ。勢力の後を吊り下りて、
和食饅頭など、茶點、煎餅、稀少輔助物も是より供と堅固として

○改書や通年流布ある某の水滸と編繙して志の三編より之
脚西夷ありまく補ひざるゝと得を原本へ行人の手に譲り文
ふをくねども克この事実と穿鑿へづる作廢の苦心費をば
然色とも無ふらずと詮みへ多く省きより升の宣立帯の事
續との三編と前と引き合ひて因瑞教も限りあらず其の事
水滸と大同小異あるべあらねど懇意懇意の微意あきを
童蒙の淺りにて筆と墨を以てむの意あらんやと云ふと
霧一書辭ふ示へて急行と遞り一早め

支那圖

卷之二

三
國
志
記